

絵本で楽しく、幼い子どものしつけ

お母さまが、お子さんに読んであげてください

●子どものしつけを真剣に考えておられるお母さまへ

しつけ教育は、子どもに自我かが芽生え、また社会との関わりが広がり始める3、4歳頃が一番大切だといわれます。しかし「子どものしつけは、どうしたらいいのかしら」と悩んでおられるお母さまが少なくありません。この絵本は、子どものしつけを真剣に考えておられるお母さまのための絵本です。

●子どもと触れあい会話しながら教える絵本です

お忙しいお母さまも、少しだけ時間をつくってください。子どもと一緒にこの絵本を楽しむ時間をつくって、お母さま自身が、絵本を読んであげてください。この絵本をもとに、子どもにお話をしてあげてください。幼い子どもにとって一番に残るのは、お母さまの「ことば」です。



幼い子どもに一番必要なのは、お母さまの「ことば」です。「明正会えほんシリーズ」は、お母さまが読み聞かせて、子どもと一緒に楽しみながら、人間として最も大切なことを幼い子どもに自然に身につけさせていく「しつけ絵本」です。

「礼」の心の第一歩、それは「ごあいさつ」。

英語では「礼」を非常に大切にします。それは、戦う相手を尊敬し、互いに認めあふ心の表れだからです。どんなスポーツでも、また一般社会生活においても、人と人が調和ある関係を築き出すためには「礼」の心が大切です。この絵本では幼い子供を対象に、「礼」の第一歩、「ごあいさつ」の大切さを教えています。それは子供が、視野の広い健全な社会人として育っていくために欠かせないものだからです。

また「ごあいさつ」は、子供だけではなく、大人の方にも改めて、考えていただきたいテーマでもあります。それは、人々が気持ち良い挨拶を交わす国こそが、真に平和で心豊かな社会だと思うからです。

山下 泰裕 (東海大学教授・NPO 法人東海教育ソングライター理事)



感謝する心が、良い人間関係を広げ人生を豊かにする。

私は英語を通して大切なことを沢山学んできました。その一つが「感謝する心」です。こういう人がいたらいまの自分があるのだ、沢山の人が支えられて自分は生かされているのだという感謝の気持ちを忘れないようにしています。日々の行動の中に感謝の気持ちが入ると、いろいろなことがうまく回るようになります。アスリートやトラクターに対しても、自分を励ますために書き込んでいるのではないかなと思うようになります。「ありがとう」という感謝の言葉は、あなたの周りに良い人間関係を広げ、人生を一層豊かにしてくれるでしょう。

山下 泰裕 (東海大学教授・NPO 法人東海教育ソングライター理事)

第1巻 ごあいさつ

ISBN978-4-89610-755-5

平成21年11月刊行

第2巻 ありがとう

ISBN978-4-89610-761-6

平成22年3月刊行予定

第3巻 なかよし

平成22年5月刊行予定

文 近藤正明
 絵 「ごあいさつ」
 石戸さとみ
 絵 「ありがとう」
 まつくらくみこ
 企画 茅 青二
 発行 明正会出版
 販売 メディアパル
 B5版、32ページ
 価格 800円
 (+消費税40円)

- 「明正会えほんシリーズ」は全国の書店で取り扱っています。各巻のISBNコードで書店にお申し込みください。
- 明正会出版に直接ご注文される方は、下の注文書にご記入のうえFAXにてご送信ください。
- 直接注文の場合は送料が加算されます。1冊210円・2冊290円・3、4冊340円。(5冊以上の一括注文は送料無料です)
- 直接注文の購入代金は、商品到着後、同封の振込用紙にて郵便局からお振り込みください。

ご注文書		Fax 03-5654-2808	
■お名前		■お電話	
■ご住所	〒番号		
■ご注文	第1巻「ごあいさつ」	冊	第2巻「ありがとう」
			冊

「明正会えほんシリーズ」発刊のご挨拶

—— 子育てをなさっているお母様へ ——

■お母様の子育てを応援する絵本シリーズです

このたび明正会出版は、お母様が幼い子どもに読んであげて、一緒に楽しみながら、子どもに大切なしつけを学ばせるための絵本「明正会えほんシリーズ」を発刊いたしました。

■外国人から社会文化の高さを賞賛されていた日本

かつて日本は、世界屈指の洗練された国民文化を誇った国でした。その昔、極東の島国日本を訪れた外国人は、口を揃えて、日本人の礼節や親切や謙虚さなどを褒め、極めて高い社会文化を持つ国民だと賞賛していました。それは日本社会全体が他人への思いやりや調和を重んじる社会だったからです。よく知られている「江戸しぐさ」は、円滑な社会生活をおくるための智慧を凝縮した一般庶民の社会規範だったといつてよいでしょう。そのような人としての基本的なしつけは、主として家庭内での子育てを通じて行われておりました。

■家庭でしつけが十分できなくなってきた

しかしその日本も、第二次大戦後は、個人主義をはき違えたエゴイズムがはびこるようになりました。核家族化が進み、多くの家庭に昔のように子育てのアドバイスや支援をしてくれる年寄りもいなくなり、また共働きの家庭が増えて親子の接触時間も減少して、家庭での子どものしつけ教育が非常にむずかしくなりました。その結果、人としての基本マナーを身に付けないまま育った人々が社会に登場するようになってきました。そして日本社会の人心の荒廃が危惧されるようになってきました。

今こそ、家庭におけるしつけ教育の重要性を改めて見直す時ではないかと思われま

■忙しいお母様、忙しい子どものために

しかし今日の母親は忙しくて、なかなか子どもにかかわってやれません。一方子どもも、友だちと一緒に遊んで互いに切磋琢磨するということが少なくなりました。子ども自身が幼い時から、塾通いや習い事で大変忙しい生活をしているからです。こういう現代生活の中で、お母様と子どもと一緒に楽しみながら、子どもに正しいしつけを身につけさせていくツールとして企画したのが「明正会えほんシリーズ」です。

この絵本が、ご家庭での子どものしつけにお役に立てれば幸いと存じます。

明正会グループCEO 近藤 正明

“礼”の心の第一歩、それは「ごあいさつ」

柔道では“礼”を非常に大切にします。それは、戦う相手を尊敬し、互いに認め合う心の表れだからです。どんなスポーツでも、また一般社会生活においても、人と人が調和ある関係を作り出すためには“礼”の心が大切です。

この絵本では幼い子供を対象に、“礼”の第一歩、「ごあいさつ」の大切さを教えています。それは子供が、視野の広い健全な社会人として育っていくために欠かせないものだからです。また「ごあいさつ」は、子供だけでなく、大人の方にも改めて、考えていただきたいテーマでもあります。

それは、人々が気持ち良い挨拶を交わす国こそが、真に平和で心豊かな社会だと思うからです。

山下 泰裕（東海大学教授・NPO法人柔道教育ソリダリティー理事長）

明正会グループは、「手当ての心」を基本理念に、医療・看護・介護の三位一体の活動を通じて、人々の健康で安心な暮らしに貢献しているトータルヘルスケア・グループです。この絵本シリーズは、明正会が企業理念『手当ての心』の実践活動の一環として、お母様の子育てを支援する目的のもとに刊行するものです。